

発 行
平成26年
1月30日
復刊 第78号



発 行 者
長野県下伊那農業高校
同 窓 会
TEL(22)5550(代)
FAX(53)0339
編集・発行
同 窓 会 幹 事 会
印刷 龍共印刷(株)

一般財団法人稲丘会の発展と 百周年に向けて

同窓会長 岩 崎 和 男 (高9回卒)



を痛感する次第でありまして、早い終息を願う所でございます。

同窓会員の皆様方におかれましては、日々御健勝で御活躍の事と拝察しお慶び申し上げます。又、母校の為に同窓会発展の為に御協力いただいております事に心より感謝を申し上げます。私事になりますが、同窓会長として未熟ながら一期目が無事修了致しました事、皆様方の御支援、御協力の賜物とお礼申し上げます。既に二期目に入っておりますが、力不足ではあります。務めさせていただきますのでよろしくお願ひ申し上げます。又、稲丘時報の発行に際しても多くの皆様の寄稿にて充実した会報となります事感謝を申し上げます。次第でありますと同時に、一人でも多くの会員の皆様に配布のできます事をお願い申し上げます。先の福島の東京電力原子力発電所の事故も今だ多くの住民の皆様様の帰還困難者多く、改めて原発事故の恐ろしさ

を痛感する次第でありまして、早い終息を願う所でございます。さて、我が母校の生徒達の活躍も今年はずばらしいものがあります。会員の皆様におかれましても新聞報道等で御承知の事と思いますが、今年の農業クラブ全国大会に於いて意見発表の部にて藤井裕介君が全国で二位の快挙を達成して下さい、同窓会としてもお慶びを申し上げます。と同時に母校の誇りと思っております。又、文化祭であります稲丘祭に於かれましても地域の皆様が大勢参集されまして大変な盛り上がりを見る事が出来まして正に地域に密着した高校であると現母校の姿に感動している所でありまして、更なる母校発展の為同窓会としても出来る限りの応援をしてみたいと思っております。

同窓会の皆様には、本校の教育活動に對しまして、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。各支会総会での母校への期待と激励、親善ゴルフ大会での多額のご寄附、先輩の今村眞直先生からの貴重な御本の寄贈、折々に来校される多くの卒業生等々同窓会の皆さんが母校、後輩に寄せる熱い思いに触れることの多い一年でした。お蔭で生徒は様々な面で

まして今年度より具体的に百周年の方向付等について学校内幹事の先生方中心に取組んでいる所でございます。百周年は我が母校にとりまして大きな区切りの年でもあります。来年度より皆様方に具体的な原案等示して行ければと思っております。各支部の絶大な御協力が不可欠でありますので今後の御理解、御協力の程をお願い申し上げます。財団法人稲丘会の新法人移

行については、公益法人化を見据えて取組んで来ましたが、今一歩難しさがあ一般財団法人として二十六年四月より発足致します。移行までの細部についてはプロジェクト委員長の報告を御理解下さい。今後この新法人稲丘会含め同窓会の発展の為に会員各位の御協力を賜りますと共に会員各位の御健勝、御発展を御祈念申し上げます。

新しい取り組みとして、アグリ研究班がシカ肉のオリジナル料理を地域に提供し、NHKで大きく取り上げられました。このニュースを知った東京渋谷に住む女性から「食文化の大切さが叫ばれている中、農業と食を学んでいる貴校の生徒は宝です」とのハガキをいただきました。面識がなく、都会のご真ん中に住んでいる女性からの激励に胸が熱くなりました。今後も、生徒らは若い感覚で、シカ肉の活用について継続して取り組んでくれるものと思っております。他に飯田市内の空き店舗を使つての実習の農産物の販売をおこない、多くの人に利用していただきました。卒業生からも温かな言葉をかけてもらいました。

ご挨拶

学校長 遠山 善治 (高26回卒)



同窓会の皆様には、本校の教育活動に對しまして、深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

一方農業クラブ活動では、意見発表の部・区分「食料・生産」において、藤井裕介君(緑ヶ丘中出身)が県大会、北信越ブロック大会を勝ち抜き、ブロック代表として全国大会に出場し、見事に優秀賞に輝きました。藤井君は現在の畜産の学習を活かして、将来は養豚経

現在ある四つの専門学科は、いずれも地域を教材にして、専門性の高い学習を展開しています。アグリサイエンス科では、保育や福祉の基礎知識の習得、郷土食づくり、景観作り、ソバ栽培や住民との交流体験をしています。農業機械科では、国家資格である三級自動車整備士の資格を目指して、厳しい実習の中で高度な整備技術とその心を学び、現場に密着した即戦力となる多くの資格を取得しています。園芸クリエイト科では、

地域での花壇づくりや技術指導、環境制御やバイテクなどの先端技術、販売実習をとおして地域との交流を深めています。食品化学科ではたくさんの加工食品をつくり、食品衛生や成分分析、食品の知識と製造技術を学び、現場実習や地域の食品を学んでいます。

これらの学習を通して学んだ食や環境、暮らしや命の大切さは、将来の日本、あるいはこの飯田下伊那地域の将来を考える上で、極めて重要なテーマであり、これらを抜きにしては未来を語ることはできないと思います。

十四年後には、この地域にリニア中央新幹線が通り、周りの環境も大きく変わることでしょう。環境は変わっても、この地域の雄大な自然、産業として環境保全として優れた農業、特色ある農産物、豊かな伝統芸能などの地域資源を未来へ残していかなければなりません。これらの地域資源を教材にしている本校の存在意義は益々大きくなっていくもの

と考えます。地域の人材育成に責任を担う高校として、さらに教育内容の充実を図っていきたくと考えます。同窓会の皆様のご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

「財団法人稲丘会」が生まれ変わります

同窓会副会長 関 島 伸 喜 (高13回卒)



平成二十年に施行された新公益法人制度に基づき、今までの「財団法人稲丘会」が法人の正式名称を「一般財団法人稲丘会」として新たに生まれ変わる事となりました。

同窓会員の皆様のご理解を頂くべく経過報告を申し上げます。

社団法人、財団法人は個人あるいは団体の寄付、出損によって目的を定めた事業を行うべく、法に則って作られた組織であり、営利事業を営むものではありません。

振り返って我が法人は、昭和五十三年夏「財団法人稲丘会」として産声を上げ

と考えます。地域の人材育成に責任を担う高校として、さらに教育内容の充実を図っていきたくと考えます。同窓会の皆様のご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

登記設立されました。初代理事長には時の同窓会長の前島忠夫氏が就任致しました。

当時同窓会は創立六十周年記念事業に協力頂いた卒業生による寄付金、PTA及び篤志寄付金、また千代の同窓会林の販売益金を保有しており、それを稲丘会に寄付し財団法人が誕生しました。

直後の昭和五十五年秋、稲丘会館が現在地に建設され、以来四十年近く、同窓会、法人の拠点として現在に至っております事はご承知のとおりです。

先の創立九十周年記念事業や役員交代等が重なり、新法人化への取組みが遅れましたが、平成二十三年期末になりやっとこの問題に着手。年度始めの五月の理事会において専任委員五名を選出(井上征雄⑩卒、宮

澤一美⑩卒、関島伸喜⑩卒、久保田信好⑩卒、川手角夫⑩卒)。
更に公益法人か、一般法人か、解散かという選択肢を絞り込むには、専門家の助言及申請手続が必要として「しなの中小法人サポーターセンター」と業務契約が成されました。

大澤幹事長をはじめとする校内幹事の先生方、成田、小林事務長にもお骨折り頂中、専任会議を開くこと十数回、理事会等関係会議、県への要請等々を重ね絞り込みを進めました。

まず同窓の先輩が築き上げてこられた法人の解散はあり得ないとし、次に公益法人の道を選択したが、極めてハードルが高く認定に至る時間も足りず、また県の指導も受ける中、一般財団法人への認可に向けて申請を進める事が最良と結論付けました。理事会に諮りご承認を頂き、同日同窓会の代議会にも報告させて頂きました。

平成二十五年八月県の審査会で認可され、第一回の評議員会が開催され、本年四月一日発足に向けて、粛々と経過していることをご報告申し上げます。

今までの法人は発展的に解消し新法人に変わるものでありませぬのでご安心

下さい。
この法人による事業は県下公立高校の中でも異彩を放つ存在であり、同窓会と

会 務 報 告

同窓会幹事長 大澤 勲 (高22回卒)



猛暑が続いて暑い夏から一足飛びに冬になってしまいました。

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。

我が身も顧みませず、又本年も幹事長をお受けすることになりました。
もとよりその器はございません、誠に申し訳なく存じておるしいであります。しかしながら最後の一年を会員の皆様方、校内幹事の先生方のご指導ご鞭撻を仰ぎ、精一杯勤めさせて頂き、精一杯勤めさせて頂き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

「財団法人稲丘会」も関係各位のご尽力によりまして平成二十五年九月九日付けで長野県公益認定等審議会

しても誇りを持つて後援し、次代を担う在校生、若き同窓生諸君を見守つて参りたいと思っております。

任期満了の役員体制につきましては、五月十八日に開催致しました理事・代議員会において引き続き現体制でご尽力賜るよう決定致しました。

また平成二十四年度の事業決算報告、本年度の事業予算が承認され事業がスタート致しました。同窓会の大きな事業の一つであります第二十二回親善ゴルフ大会が六月二十七日、大会史上最大の二百五十余名のご参加を頂き盛会に行われました。例年通り参加者の皆様から母校に多額のご寄付をいただきました。校友会など生徒の活動に使わせて頂きます。稲穂会(女子部会)の活動であります。本校卒業の女性会員も四千八百二十四名を数え、全卒業生数一万八千名の四分の一となり、在校生も女生徒が過半

です。

数を占め、活発な活動をさ
れ明るい旋風を巻き起こし
ております。二月には総会
も予定致しておりますので、
多数のご参加を頂き盛会に
なりますことを念じておる
次第であります。支会活動
であります。例年総会を開
いて頂いておりますが、
昨年度は東京・上郷・伊賀
良・松尾・神稲・下久堅・
喬木の各支会で開催され、

母校創立百周年記念事業に向けて

同窓会校内幹事会百周年事業係 北原 千歳（高31回卒）

会長始め事務局から校内幹
事が出向いております。そ
の中で一回発行される時
報が届かないと言った声を
耳に致しますが、是非各支
会で組織の充実をして頂き、
全会員の皆さまに時報が届
きますことを願うものであ
ります。更なる支会の発展
を願っております。

決定趣意書案作成、二十六
年度には実行委員会の立ち
上げを予定し、平成三十二
年には記念事業を予定して
おります。会員の皆様方に
於かれましては、母校の発
展のためにより一層のご指
導・ご鞭撻を賜りますよう
にお願いを申し上げます。
報告とさせていただきます。

同窓会校内幹事分掌に、
今年度より百周年事業係が
新規に設けられました。平
成二十五年度は、稲丘会館
内事務室内に保管されてい
る貴重な各種資料の整理に
取りかかりました。考査中
の午後を利用しての整理の
ため、充分進んでいないの
が現状です。

ンピックの開催年になりま
す。八十周年記念事業は六
年前の平成六年五月の代議
員会で大綱が決定し支部を
基本とした募金活動がスタ
トしました。創立百周年記
念事業の六年前と言え、
平成二十六年になります。
今年六月の代議員会が大綱
決定になる予定です。

すでに県外の支会総会、
地元支部の総会等でも、大
綱が出されるのを心待ちに
している同窓生の皆様方の
多数の声が聞かれておりま
す。当然募金活動がなされ
ると予測されており、早々
とそのような募金活動に対
して前向きな抱負等語って
いただいている点は大変あ
りがたいです。

五名の係職員で構成され
ておりますが、創立八十周
年記念事業の過去の綴り類
を掘り起こし、この時の進
み具合を百周年に照らし合
わせ、検討を始めておりま
す。ご存知のとおり、八十
周年記念事業は、平成十二
年十月に記念式典が挙行さ
れました。これを平成三十
二年の百周年事業に当てる
と、ちょうど東京オリ

係会では、過去十年毎の

あわせ、およそ九千五百万

母校創立百周年に望む

同窓会顧問 今 牧 英 世



以後歴代校
長先生、諸先
生方のよき伝
統を築く学校
教育が同窓会
の歴代会長、
役員との協力
により、様々な困
難を乗り越え

大正九年（一九二〇年）
に下伊那地域の要望によ
り、初代校長芝原彦十先
生が着任して開校してか
ら百周年を迎える。開校当
時稲井ヶ丘で先生方の率
先した教育により生徒と
共に農場づくりを行い、
開拓精神を養
い、新しい農業
を育てる教育
に努めた。これ
等について語
りつがれ、記録
に留められて
いる。

て農業教育が進展してきた。
旧制の農学校の時代の校
章は、農の玉を龍の三本の
爪で抱え、信濃の国の象徴
である笹の葉で囲まれてい
て、これがいかに大切であ
るか芝原初代校長先生が退
職後も、来校された折力説さ
れたことが思い出される。

るからである。
母校は現在魅力ある高
校として、地域との連携、
大学との農業教育の連携
を行っており、同窓会は農
業教育の重要性特殊性を
地域に訴えて地域の理解
と協力を得ている。

平成二十二年の創立九十
周年記念式典と記念事業が
盛大に行われ、単独の農業高
校として、伝統が保たれて
いることを感謝した。

次に母校の伝統を後世
に繋ぐのに適切なことは
「旧校歌」である。作詩は飯
島武男先生（大正九年、
昭和四年）長く母校に勤め
られ特に開校時に在勤さ
れた詩人であり、若い農
業の先生で生徒達と苦勞
を共にされた。この様な
体験の中に作られた校歌、
母校の伝統が心に滲みる
歌である。

なほ、母校の伝統に努め
られた旧先生、職員の方々を
お招きしたところ、多数の
方がご参加頂き、当時は懐古
されてよろこばれた。すば
らしい事業であった。

でき得るなら、母校創立
百年の記念碑を建立する
ことを提案したい。

平成三十二年には、創立
百周年を迎えることになり
ますが、大切なことは「単独
農業学校」を存続すること
である。現在県内の高校で校名
に「農」の文字のある学校は
数校である。これは生徒数の
減少により高校の規模と配
置の適正化をはかるため高
校の再編成が計画されてい
る。

（旧制十六回卒業 九十二才）

円の寄付にて事業を実施し
ました。平成七年六月の趣
意書では、記念事業として、
本館玄関前庭一帯の環境整
備、第二グラウンドの確保に
ともなう施設の充実、創立
八十周年誌・会員名簿発行、
同窓会館の整備等の計画を
たて、事業推進の目的の為

に募金活動をお願いをした
経過が残っております。
最近の経済情勢は上向き
傾向ではあるものの、地方
ではまだ浸透していないの
が現状かもしれません。し
かしながら、母校創立百周
年事業は、しっかりと募金

活動をしようとする雰囲気
が高まっている機運が感じら
れます。そのような機運を
紹介し、卒業生の皆様の創
立百周年記念事業に向けて
のご理解ご協力をお願い致
します。

二〇一三年度下農ラグビー班について

ラグビー班顧問 榎 原 健 太

同窓生の皆様におかれましては、時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度四月の段階における班員は、三学年合わせて十名(ラグビーは十五名で行います)と少ない状況でした。春の大会では、飯田OIDE長姫高校と合同チームを組んで大会に臨みましたが、なかなか良いプレーを行うことが出来ず、ノーサイドを迎える結果となりました。



しかし、秋の大会では、単独チームで出場することが出来ました。他の班を引退した三年生などの力を借りるという形ではございましたが、単独チームで出場することができました。このことは、生徒たちにとってもとても大きな喜びでした。

良い結果を出すことは出来ませんでした。春には感じられなかったようなプレーを見せられたと思っております。人数が少ない中でも頑張ってきた結果が秋のような経験に繋がったと考えております。この経験

下伊那農業高校野球班

野球班顧問 松 島 晃

今年度の夏の大会では、初戦で同じ農業高校である南安曇農業と対戦しました。練習試合を通じてお互い

がお互いの戦力を知りながらの対戦はやりがいの面もあり試合では案の定中盤まで負けていきましたが粘り強く食い下がる中でやと掴んだチャンスを一打の長打で逆転し、初戦突破することができました。二回戦では昨年の春の全国選抜大会出場地球環境高校との対戦、中盤までなんとか食い下がるもの



の、後半に追加点を重ねられて残念ながら敗退、今年も二回戦で敗れてしまいました。連日の活動では、野球部員といえども放課後は農場週番等々を各自がやり終えてからの活動となり、全体の練習への参加は約一時間後に合流ということも多々あり中には全体練習後各自で個人練習をする姿も見受けられます。

ここ数年では夏の長野県大会での初戦敗退はないものの、三回戦、四回戦と勝ち上がる事ができず私立高校の壁に阻まれて悔しい涙を流してきました。今現在、野球部員は一、

二年生でマネージャーも含めて、二十三名で活動していますが、この部員たちが諸先輩の方々を乗り越え、冬冬の冬季練習に励んでおります。

昨秋行われた飯伊地区の飯伊大会では、新チームとして来年に向けて大きな自信にもつながる優勝をする

ことが出来ました。日頃の練習の積み重ねと個々の努力、そして日頃の野球部員としての心構えを今一度見直しつつ、さらにはがんばっていききたいと思っております。

今後も下伊那農業高校野球班の活動を暖かく見守っていただきたいと思います。

剣道班の活動について

剣道班顧問 木 下 孝 繁 (高47回卒)

同窓会の皆様には日頃から剣道班の活動にご理解ご協力頂きまして誠にありがとうございます。

剣道班では現在男子九名女子三名で活動しており、県大会上位を目指し稽古に励んでおります。

部員数が減少している中、剣道班独自の活動として飯伊高校合同稽古会を今年度二回、十二月十四日に本校九十周年に開催した

剣道大会を南信地区に拡大し開催する事ができました。一月十八日には第十二回稲丘杯中学生剣道大会を開催予定ですが、こうした活動を行う事で班員も大会開催の大変さを学

び地域高校中学と連携し剣道の魅力を伝え、競技人口の増加と本校剣道班員増加を願って活動しております。今年度三年男子と二年女子で個人戦北信越大会に出場することができました。今後も上位大会に出場できるように精進して参ります。ご理解ご協力よろしくお願ひします。



北信越大会出場、喜びにわく班員

の活躍

頑張れ！下農柔道班

柔道班顧問 菊原文典



柔道経験がない私が下農柔道班の顧問となつて七年が経ちました。赴任当時の下農柔道班は、正直やる気を感じられない集団でした。そんな時代から三年前、全国大会出場を目標とする女子選手（原千香子さん・現三年生）が入学してきました。又、男子も強くはなくても毎日コツコツと努力を重ね、練習をする様な雰囲気となつており、正直技術的な指導はできない私にとつて悩みでした。男子部員の一人が、中学時代にお世話になつた指導者に「下農卒」

の人が居るといふので、その方に指導をお願いしてみることにしました。「全国大会出場を目標として練習をするなら指導します。」との返答を生徒達に伝え、原和男氏（第三十七回林業科卒）に外部指導者として正式に柔道の指導をして頂けることになりました。その成果はすぐには結果として表れませんでした、とにかく今までにない柔道の奥深さを感じながら生徒達を見守っていました。原千香子さんの頑張っている姿に影響されたのか、今現在、四人の女子選手が下農で柔道に打ち込んでいます。この子達が平成二十五年南信柔道新人大会で団体戦初優勝という結果を残してくれました。県新人大会でも団体戦三位・個人戦では一名が準優勝と過去にない成績を残してくれました。下農柔道班は、発展途上のチームです。

運動班



同窓生の皆様にも「下農柔道頑張ってるね！」と言つて頂ける様に、今後も生徒達に激を飛ばしていきたいと思つています。今悩んでいることは、下農柔道場には畳がなく、レスリングマットで練習しています。頑張っている生徒達に良い環境で練習をしてもらいたいと思つています。色々な方面に声をかけ畳を購入してもらいたいと思つています。

南信大会初優勝

弓道班顧問 佐藤元勇

今年下農弓道班にとつて記録に残る一年となりました。過去の記録を隈無く調べたわけではありませんが、五月に行われた南信高校総体において男子団体戦で初優勝を飾ることができました。全国への出場権をかけた県大会では予選は通過したもの、トーナメント一回戦で松商学園に惜敗してしまい夢の全国舞台には届きませんでした。

本校道場には「正射必中」という弓道の基本となる言葉が掲げてあります。「教本通りの正しい射型であれば必ず的にあたる。」ということなのですが、実際は大変難しいことです。中学



時代から弓道の経験がある生徒は殆どおりません。高校一年から基本を学ぶのですが、僅か二年程度では正しい射型を身につけるのは

女子バレーボール班の活躍

女子バレーボール班顧問 内藤義人

大会では選手数の何倍もの応援団が、ギャラリイで大声援を送ってくださいます。保護者・関係者のみなさまの日頃からのご支援で、女子バレーボール班は南信

総体準優勝、高校選手権長野県ベスト八まで勝ち進むことができました。下農の女子運動班の中で唯一の団

体競技。その難しさと日々対面しながら、下農の代表として頑張っている選手たちを、とても誇りに思っています。

「北信越大会出場」の目標を達成できなかった3年生の気持ちを受け継いで、来年度も北信越大会出場に挑戦します。



困難です。幸い本校顧問であった中山先生の粘り強い指導で多くの生徒が他校の生徒より早く上達していったと思つています。中山先生が上農に転勤された後も先生の指導を受けた先輩など指導に来てくれた大変助かりました。しかし、弓道は技術だけでなく、精神鍛錬の場でもあります。好成績をあげることもできたのも、誰もが緊張する場面でも落ちて射に集中できたからこそだと思つています。日頃から常に試合を想定して練習してきた賜でした。もっと言えばそういう姿勢を教えてきてくれた中山先生のおかげであったと思つています。今後は下農弓道班の良き伝統を後輩に伝え、近い将来全国大会出場が叶うよう班全員で精進していきたいと思つています。

アグリ研究班の取り組み

アグリ研究班顧問 小池 眞理子

アグリ研究班では、数年前より年間を通して地域の環境保護活動や援農活動を行っています。具体的には、よこね田んぼの畦塗り・田植え・稲刈りの協力、下栗地区でのジャガイモの植え付け・収穫・そば刈りのお手伝い、各種イベントでの出展・販売など多岐に渡ります。中でも、鳥獣害による農作物への被害調査研究から始まった鹿肉の活用については、特に力を入れて取り組んでいます。今年度は、これらの活動をもっと発展させるために飯田市川路地区の皆様、天竜峡そば普及組合様、飯田市教育委員会、飯田市農業課、観光課など多くの皆様のご協力を得て、天竜峡温泉交流館食堂において、天竜峡そば普及組合と協働しそば屋を企画運営しました。アグリ研究班としては、鹿肉料理2品、ハヤシカライス、鹿肉ギョウザを提供し好評を得ました。鹿肉ギョウザは皮にそば粉を入れることでオリジナルテイーを出し提供。そばと共に毎回閉店前には完売するほどの人気でした。集客数も高校生が参加する食堂としての話題性



鹿肉ギョウザ



ハヤシカライス

も高く、毎回満員御礼、昨年度よりはるかに多い結果となったようです。また、鹿肉の活用に興味を持つていただき、他地区から話を聞きにきてくださる方がいたり、食品会社からの問い合わせもいただくなど意義のある活動となりました。今後も継続研究活動を行い、新たな展開を目指したいと考えています。

果樹班久しぶりに活動を再開

果樹班顧問 北原 千歳 (高31回卒)

久しぶりに活動を園芸クリエイト科三年果樹専攻生を中心にスタートしました。グループ全体で取り組んだFJJ検定特級位は、代表生徒二名が合格しました。リング高密植わい化栽培及びモモの品質向上に関する試験です。全国では二十四名だけであり、この取り組みは十年ぶりです。



長野県産業教育振興会主催の生徒研究文・作文・グループ研究で応募し、三点が入賞・佳作に入選しました。これも数年ぶりです。更に長野県学校科学教育奨励基金を受けての研究は、

ブドウの無核化に関するテーマを設けて研究を始めました。七月SBC学校科学大賞候補の通知を受け、すでに関係者の取材を終え優秀賞めざして最終原稿の提出も終え結果待ちです。

飯田下伊那地方は果樹園芸地帯です。本校果樹班は、やはり地域に向けての研究分野での情報発信は大切です。県予算が限られる中、各種研究助成金等を使い、可能な範囲で調査研究を開始しました。

継続研究の意味で各種果樹の新品種の苗木をたくさん購入し、数年先を見越しての準備も、果樹班の活動として進めております。現果樹園はすでにモモ園の連作障害

(いや地現象)、リング樹跡地の白もんば病など同一場所で栽培する果樹園のむずかしさが現れています。しかし、老朽化果樹園の再生をテーマに掲げ多面的な調査研究を実施することは意義深いと考えております。

食品科学班の活動

食品科学班顧問 清水 茂子

食品科学班は班長の平谷りささんを中心に十六名の班員で活動しています。七月の農業クラブ県大会では「米粉の利用」と題して発表しました。微粉碎の米粉を使い、パンやシフォンケーキ、お焼き等の製造方法を研究してきました。昨年は米粉麺について研究、今年度は下農の米を製粉し、その粉を用いた製品作りを試みました。特殊な製粉機でないと微粉碎は難しいが、シフォンケーキは出来ることがわかりました。その結果を十一月の公開講座で披露しました。実施前に何度もレシピを試作し、限られた時間の中でより多くのメニューを披露したいと考えました。新班長の牛村南月さんを中心に、二年生が熱心に取り組まれました。人に教える事は難しく、又やがたいもあり、多くの事を学べました。講習を受けた皆さんにも喜んで頂き、生徒は充実感で一杯でした。このような地域との交流の機会が、地域の皆さんにとっても刺激があると思います。が、生徒が地域の皆さんから学ぶ事が多いと認識を新たにしました。今後の課題として、市田柿について、茶の製造、漬け物等を考えています。今年も六月に下農で生育中の茶葉を摘み、ホットプレートで煎茶にしました。南信濃の遠山美緒さんや、箕輪町の増澤武雄先生に教えていただいた事を元に実施しました。地域に目を向け地域の素材を生かせるからこれ程有意義な事はありません。何かヒントがありましたら声をかけて下さい。



公開講座

究班の活動

吹奏楽班頑張っています

吹奏楽班顧問 伊澤 美佳



春、新入班員を心待ちにし、パフォーマンスを交えた演奏から勧誘活動が始まります。現在、班員は一、二年生のみで十六名。ここ数年の班員減少は著しく、胸を痛めておりますが、「楽器を吹きたい」「音楽をやりたい」と純粋な気持ちで集まってくるメンバーはどの生徒も真剣で努力家。充実した活動が継続されています。

春、地元の演奏会への出演や、地域のイベントなどへの出張演奏なども行います。夏、コンクール一色です。ひたすら同じ曲を練習し続けます。熱い思いを音に

変え、たった七分間に全てをかけて演奏します。

そして、秋。芸術の秋は大忙しの季節。最大のイベントである定期演奏会をはじめ、伊那谷文化芸術祭への参加や稲丘祭もあります。

今年で四十二回を数える定演は、生徒自身が企画選曲し、毎年二十曲以上を演奏するという中身の濃いコンサート。企画ステージでは農業高校らしい内容で考えられた寸劇を交え、農産物抽選会も行い好評を呼んでいます。

この抽選会、花や果物をはじめ、新鮮な野菜や卵、加工品はもちろん米や味噌といった豪華な品が並ぶので、毎年大人気なのです。

そして現在、寒い冬を迎えています。各グループに分かれアンサンブルコンテストにむけて猛練習中です。

作業服を着て農場で働く生徒の姿ばかり見ている農業科の先生が、ステージで演奏する彼らの姿を見て、「別人のようだ」と感想をおっしゃられたことがあります。農業と音楽、一見かけ離れた分野のように思いますが、彼らにとっては、成果(収穫)を夢見てひたすら練習(作

専門・学芸・特別研

生活研究クラブの活動

生活研究クラブ顧問 塩澤 弘子

「下農で生まれた色」

本校の農場の隅で育てた「たで藍」の生の葉を使って染めたスカーフ

藍の葉がいよいよと生育している7月から9月のはじめまでの季節限定の染め方で、シルクを染めます。紅い小さな花が咲くと色が出ません。

一枚のスカーフを染めるのに洗い桶、山盛り一杯以上の葉を用意し、水を加えてもみませます。緑色の液体が出てくるのですが、これが染液になります。緑色に染まったスカーフを空気中の酸素に当てると次第に青く

業)し続けるという、変わらぬプロセスなのかもしれませぬ。

今後も応援され続ける吹奏楽班でありたいと願っています。どうぞ温かく見守っていただきますようお願いいたします。

一枚のスカーフを染めるのに洗い桶、山盛り一杯以上の葉を用意し、水を加えてもみませます。緑色の液体が出てくるのですが、これが染液になります。緑色に染まったスカーフを空気中の酸素に当てると次第に青く



変化していきます。これを何度か繰り返すと鮮やかな瑠璃色が出てきます。シルクを染めるには一番楽な方法かもしれません。

「下農で生まれた味」

下農の農場にも竜峡小梅の木があり、この木から収穫した梅でシロップ、砂糖漬け、カリカリ漬けなどを作ります。しそを入れた紅い梅酢で塩を染めてピンクの福塩も作ります。

梅の加工品を作る人が減っている様子なので簡単にできる梅みそを作って、料理やお菓子を作り、竜峡小梅を多くの方に知っていただき、使っていただきたいという目的で研究しています。今年も梅みそクッキーを作りました。

200人以上のひとに試食をしていただきアンケートにご協力いただきました。おいしいと言って下さった方が多く嬉しかったです。

インターアクトクラブ 結成二十周年を迎えて

インターアクトクラブ顧問 渡邊 文

インターアクトクラブは、平成五年五月二〇日に飯田東ロータリークラブのご支援により結成され、今年度二〇周年を迎えました。六月一日には、稲丘会館にて記念式典を行いました。

インターアクトクラブとは、ロータリークラブの提唱により結成され、社会貢献や国際交流を目的とするクラブで、県下では下農を含め一〇

校にあります。

今回の式典にあたり、生徒とともに、この二〇年の活動を振り返りかえました。また、式典では、結成当初のご苦労を、当時のロータリークラブや学校の関係の方々よりお聞きすることができました。記念講演では、二〇〇六年から継続して行われているイラクの白血病の子ども達への支援について、当時より私た

ちとイラクをつないでくださっている「アラブの子ども」となかくする会の西村陽子さんからお話をお聞きしました。式典を通して、たくさんの方々のご支援で、様々な活動が行われていたことを改めて実感しました。

この三月には、オーストラリアへの研修に、二名の生徒が参加します。また、今年の新しい試みとして、毎年飯田東ロータリークラブとともに手入れを行っている松川入りの植樹林の間伐材から作ったコカリナで、演奏を行う予定です。

これからも、二〇周年の伝統を受け継ぎつつ、私たちが新しい活動をしゆきたいと考えています。



支会・部会・OB・OG会だより

「東京稲丘会」の活動は…

東京支会幹事長 福澤省三(高21回卒)

当支会では二十五年役員が改選されました。ここ数年少数の役員の方の苦勞で何とか繋いできた感があり、総会への参加数も年々減少しています。若い方は移転も多く、正確な名簿把握は困難です。また同窓会には年々関心が薄くなって来てしまっているのが現状です。そんな背景がありますが、新役員は会長が第二十二回卒と若返りました。企画と努力で参加する方が増えてほしいと思いい、総会の案内状を透명한A4封筒に故郷の写真と食品・果物会社の宣伝を同封し発送しました。DMと勘違いしゴミ箱へ投棄した方もいたみたいで思惑とは違う結果になってしまいました。

総会では郷土出身の落語家竹藏師匠が盛り上げ、パ



東京稲丘会総会 6月22日

ターゲット！と楽しいひと時でしたが役員としてはちよつと寂しい人数でした。役員は活動は理事会、県同窓連、南信同窓連総会や旅行、新年会、忘年会、理事会等全て参加すれば年間十五回位の回数になります。県の高校交流会は多種多様な方々が居て、親しく成れば有意義な時間となります。今後の東京稲丘会は、企

画を立案し徐々にでも多くの同窓生が参加していただけるように一生懸命努力していくつもりです。

同窓会支会活動の現況について

— 県支会長 本島章好(高6回卒) —

去る二月十一日、

県支会地区代表者会の席で、永年支会会長を担当された小林貞美先生が一人上の都合で退任され、不肖私に指名いただきました。当支会は母校の地元故に現存者八百余名の多人数であり地域内外で夫々頑張っています。

「光陰矢の如し」

卒業後早六十有余年も過ぎかつて田園都市であった我が母校稲井ヶ丘周辺も、飯田バイパス開通に依り、新しい歴史のページが開かれ、夜明けが到来しました。まず支会の事業として、母校農場の見学を五月三十日、午後五時より希望者十六名にて約一時間程させていただきました。我々の時代には、



地元の同窓生の皆様も、同級生と共に「東京稲丘会総会」にお気軽に参加して頂けましたら本当に嬉しいことだと思えます。

下伊那農業高等学校の同窓生であることを誇りにし今後も活動していきたいと思えます。ご協賛をお願いします。

水稲、養蚕、畜産、果樹等が基幹教育でしたが、今日では花卉そしてハウス蔬菜園芸となり、養蚕、畜産科も廃科となり新時代を招く教育の場として時代の流れに即応された教育環境の变革を体得出来ました。会場を稲丘会館に移動して、総

五風十雨

伊賀良支会長 鈴木昭平(高4回卒)

— 伊賀良支会 —

五日に一度の風が吹き十日に一度慈雨がある、そんな天候を望んで作物の生育を願う言葉ですが、地球の温暖化で海水の昇天が早まり豪雨、風速も強まり電柱を倒し建物の破壊被害が各地に出ている。温暖化の影響と思う。自然を大切に樹木が茂り、海に魚のエサになるプランクトンの豊かな水を海に返せば海産物も豊かになる。CO₂を吸収して酸素を出す森林を増やさなければ住み良い環境を保てない。母校の同窓会伊賀良支会の活動であります。先輩の長年にわたる支会組織は充実して地区内が六地区に分かれて、その地区も地域に際して末端の会員に連絡や稲丘時報がとどく組織があります。

一年一回の定期総会



「佐倉亭」にて定期総会

会を開きました。同窓会の代議員会の諸報告を事務局より、同窓会を代表して地元の関島伸喜副会長さんより六年後に迎える母校創立百周年の事業予定の一部と今後の取り組方等の説明を

五日に佐倉亭で総会を開き母校の現状と卒業生の進路状況等、時代の動きに対応した取組の報告がありました。

お酒が入って若かった学生時代にもどりの熱気を帯びて、なかでも教師であり先輩であります今牧英世先生。野球を愛し母校を思う先生の音頭で旧校歌を歌って散会しました。

稲穂会への思い

稲穂会部長 城 田 美津子 (高15回卒)

卒業以来稲穂会に出席す
 らしていなかっただけがあつ
 かましく部長をお受け致し
 ました。 副部長さん二人(岩
 田和子さん、林倭子さん)
 がすばらしい。 ささえて下
 さつて今日に至つておりま
 す。 昨年二月の総会の折遠
 山善治校長先生の講演をお
 聞きし今の下農の生徒さん
 達のすばらしさを知り先輩
 として誇りに思います。 校
 長先生の気さくで楽しい先
 生のお人柄にふれて心が暖
 まつた事。 久しぶりに、三
 年間御世話になつた校舎で
 会議をさせていただき、歴
 代の校長先生
 方のお写真を
 あおぎ見た時、
 時の流れを感
 じ、自分の学
 生時代がよみ
 がえつて来て、
 やり直せるも
 のならもう一
 度と、反省の
 思いでいつぱ
 いです。 稲穂
 会、会員さん
 の中にも地域
 で活躍されて
 いる人が沢山
 います。 そん
 な会員さん



マレットゴルフ開会式 (信州まつかわ温泉清流苑にて) 6月22日

紹介しながらお話を聞き
 し勉強会など出来たらいい
 かなと思つております。 時
 代の流れに逆らうことは、
 むずかしい事ですが「農は
 我らのいのちかな」と歌つ
 た私達は今何を考えて行動
 すべきか問われる時が来て
 います。 稲穂会に参加して
 良かった、楽しかったと言つ
 てもらえる行事を行いたい
 と思つております。 会員皆
 様のお知恵をお貸し下さい。
 末筆ながら常日頃事務局の
 先生方には大変御世話にな
 つております。 感謝申し
 上げます。

第二十二回大会を振り返り

事務局長 伊 藤 久直 (高21回卒)

本年も、恒例になりました
 た同窓会親善ゴルフ大会が、
 六月二十七日に梅雨時期と
 はいえ好天に恵まれ、二百
 五十名余りの参加を頂き、
 飯田カントリークラブにお
 いて盛大に開催する事が出
 来ました。 本年は幹事の皆
 様、同窓生の皆様の絶大な
 御協力により、過去になか
 った多勢の方々に参加を頂き
 ました。 スタート時間を三
 十分繰り上げ六時三十分ス
 タートとし多くの皆様に御
 協力を頂きました。
 恒例になつていますが、
 ショートホールに設置され
 たチャリティは沢山の皆様
 に御協力を頂き、母校の後
 輩達へ多額のチャリティ金
 を贈呈する事が出来感謝を
 申し上げます。
 競技終了後の表彰式・懇
 親会においては、同窓会長、
 校長先生・来賓として来て
 いただいた木下様をはじめ
 多くの方々の出席をいただ
 きました。 参加者が年々増
 え、うれしい悲鳴と同時に、
 表彰式開始時間が遅くなつ
 てしまいみなさんに大変御
 迷惑をかける事となりました。
 又、賞品につきまして
 も賞品係の方々をはじめ同
 窓生、協賛者各位の御協力

により盛大に参加者各位に
 お渡しする事が出来感謝申
 し上げます。
 各支会においては反省会
 等も計画があり、集計表を
 配ると、万歳の前に多くの
 方が帰られてしまい、多額
 のご厚志を頂いた木下様や
 学校長、東京支会から参加
 を頂いた方々に大変失礼を
 しました。
 今后表彰式の内容等、今
 一度検討をし進める必要が
 あるかと思ひますので、そ
 れぞれの御立場で御協力を
 お願いしたいと思います。

最後になり
 ましたが、今
 大会の開催に
 当り各幹事の
 方々、競技の
 運営に携わつ
 ていただいた
 各係の皆様へ
 今大会に参加
 していただい
 た皆様、あら
 ためて感謝を
 申し上げます、こ
 の伝統ある同
 窓会親善ゴル
 フ大会が益々
 発展する事を
 祈念申し上げ
 ご報告とさせ
 て頂きます。

下農同窓会親善ゴルフ大会成績

支会対抗の部				
優 勝	伊賀良支会			
準優勝	竜丘支会			
3 位	大島・生田支会			
4 位	市田支会			
5 位	上郷支会			
個人の部				
優 勝	今牧 清司	高18回	伊賀良	
準優勝	原 敬	高21回	山 吹	
3 位	塩沢 實	高11回	竜 丘	
4 位	矢沢 信二	高27回	伊賀良	
5 位	矢澤 克彦	高29回	座光寺	
6 位	桐生 文彦	高23回	下久堅	
7 位	松島 伸幸	高14回	上 郷	
8 位	高島 勝秀	高16回	竜 丘	
9 位	青木 成人	高19回	上 郷	
10 位	佐々木眞幸	高13回	市 田	



名古屋熊村塾の開催

校内幹事名古屋熊村塾係 松村和重(高59回卒)

本年度より、毎月一回の日程を原則に名古屋熊村塾を行っています。毎回多くの同窓生や地域住民の方々、本校の生徒・職員を「受講生」として参加を頂いております。(大学の「講義」のようでもしうろいと評判です。)

この名古屋熊村塾は地域の地域の皆さんの異業種間交流を図るために平成十一年六月に始まりました。地域の農業振興、伝統文化、自然・健康等をテーマに地域で活躍している方々、大学の先生を講師に行っています。

開催回数を重ねる毎に生徒の参加も増え、中には、講師に鋭い質問をする場面も見られます。普段の授業とは異なり、新鮮な気持ちで聞いているようである生徒は、普段学んでいる学校の授業が全てではなく、教科書に書いてあることなんてあてにならないんですね。」と講義の感想を聞いた生徒が感想を教えてくださいました。「その点に気付くことは大切だけど、むやみにやっているわけではないよ。基本があつて、その上で創意工夫して、結果を



名古屋熊村塾の一コマ「飯田下伊那の伝統野菜について」

出しているんじゃないかな。その基本は学校や教科書から学んでいるんじゃないかな。」と私も答えました。地域の方から学ぶこともたくさんあります。この名古屋熊村塾を通じて、地域の学舎として、充実・発展させていきたいと思えます。講義の様子、講義の案内等は下農のHPに掲載してありますので、ご覧頂き多くの方々にご参加頂きたいと思えます。下農という看板を背負っていることを誇りに思い、地域に飛び出してもらいたいと思います。今後も名古屋熊村塾の開催を通じて、下農という看板を汚すことのないような生徒の育成に取り組んでいきます。

二年間の農業クラブ活動を振り返る

平成二十四年度農業クラブ参与 菊原文典
平成二十五年度農業クラブ参与 新井理宏

平成二十四年度、日本全国の農業高校から約四千人が集まり、日本一をかけた戦い「第六十三回日本学芸農業クラブ全国大会 長野大会」が長野市をはじめとする長野県の各開催地で開催されました。「アルプスに 今こそ輝け 農クの集い」自然あふれる長野の地、農クの力 山より高く」を大会スローガンに掲げ、県内の農業高校十二校すべてで農業鑑定競技会・意見・研究発表会・クラブ員代表者会議・大会式典などの企画・運営を行いました。

本校でも「全校の心は一つ。全校でおもてなしの心を持つて歓迎したい」と全校生徒で水引の制作活動に取り組み、水引ブックマーク・水引リボン・水引ストラップなど全国の農クの仲間たちに記念品として配布しました。



長野県農業クラブ員が一丸となつて迎えた長野大会は、参加した人から運営や対応の素晴らしいさを評価して頂き、下農でも大会式典で吹奏楽班が演奏し、各競技会の様子をまとめたスライドを大会式典で披露する、大会速報を配布するなど担当させて頂き、担当した生徒は「おもてなしの心」を込めて精一杯頑張りました。全校生徒で取り組んだ水引の大会記念品(水引ブックマーク・水引ストラップ・水引リボン)も、参加者の方々から大変素晴らしいと大好評でした。全校の皆さんの取り組みに感謝します。本当にありがとうございました。(文責：菊原)

平成二十五年度農業クラブ活動スローガン「農クと地域の心をつなぐ響かせよう美しい未来へ」にあわせて、本年度新たに九月二十八日(土)飯田市リンゴ並木六十周年記念事業に



おいて、臨時下農アンテナショップを飯田市リンゴ並木内二店舗開設した。事前に飯田FMでの生放送にてPR活動を行ったり、当日はパネル五十枚程度を用いて本校の取り組みや特徴などのPR活動も行った。果物や野菜・加工品などトラック一台分の農産物を販売し、開始二時間程で完売した。参加した八十人程度の地域の方から「私の空き地を無償でお貸しするので、私の地域でも是非販売して欲しい。下農産物を買いたくても買えない人がたくさんいる。」などの数多くの要望があり、大成功にて終了した。

また、埼玉県杉戸農業高等学校にて開催された農業クラブ全国大会首都圏大会の意見発表区分「食料・生産」では、アグリサービスクの三年生が九年ぶりに出場し、優秀賞(全国第二位)という結果となった。これは、下農として初の快挙となった。

また、埼玉県杉戸農業高等学校にて開催された農業クラブ全国大会首都圏大会の意見発表区分「食料・生産」では、アグリサービスクの三年生が九年ぶりに出場し、優秀賞(全国第二位)という結果となった。これは、下農として初の快挙となった。

また、埼玉県杉戸農業高等学校にて開催された農業クラブ全国大会首都圏大会の意見発表区分「食料・生産」では、アグリサービスクの三年生が九年ぶりに出場し、優秀賞(全国第二位)という結果となった。これは、下農として初の快挙となった。

まで研究やレポート作成など地道に取り組んだ成果であると感している。

また、本年度は第三地区事務局校として、「まとまりある第三地区。魅力あふれる第三地区農業クラブ活動にしよう。」を motto に、農ク執行部・農林委員の上級生を中心に第三地区総会



や第三地区研修会などの各行事に取り組んだ。とりわけ、第三地区研修会では、

班ごとに分かれた「豚汁・五平餅作り」「豪華景品のあたるチーム対抗ワンパウンドバレー」などを通して、第三地区のクラブ員達の「和」を改めて作ることができた。

平成二十五年度は二・三年生の大きな活躍により大変素晴らしい成果を残すことができ、生徒の心の中に「一生懸命さ」「コツコツ取り組む姿勢」を改めて痛感した一年であった。本年度の先輩達の姿を見て、来年度も本年度に続くクラブ員がたくさん出てほしいと思っている。「下農に入って本当に良かった」と言われるよう全力でバック

アップをしていきたいと考えている。

最後に、様々な農業クラブ活動にあたり、富士見高校・上伊那農業高校の第三地区のクラブ員及び先生方、全国大会に向けて夜遅くまで学習指導等頂いたり、意見発表に関する貴重なアドバイスを頂いたりした本校の全先生方及び飯田長姫ライオンズクラブの皆様によりお礼を申し上げます。また、九年ぶりの全国大会意見発表区分「食料・生産」出場に関わる横断幕作成・掲示について、多大なる援助を頂きました同窓会の皆様に心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。今後とも御指導頂きますようよろしくお願いたします。(文責：新井)

私は意見文を発表するとは初めてでした。校内発表で最優秀賞を受賞し、県大会から北信越大会、全国大会へと出場するために毎日のように練習をしました。文章を暗記し、発表を聞いて頂く方に興味を持ってもらえるように、抑揚や強弱などの表現を身に付けるように練習しました。そして練習では、多くの方にお世話になりました。

農ク意見発表を通して

アグリサービスク三年 藤井裕介

私は意見文を発表するとは初めてでした。校内発表で最優秀賞を受賞し、県大会から北信越大会、全国大会へと出場するために毎日のように練習をしました。文章を暗記し、発表を聞いて頂く方に興味を持ってもらえるように、抑揚や強弱などの表現を身に付けるように練習しました。そして練習では、多くの方にお世話になりました。

嬉しかったです。北信越大会では、県大会での反省を活かしながら原稿を直していききました。県大会で最優秀賞を受賞したように北信越大会でも最優秀賞を受賞したいと思い、そのためには今まで以上に発表中の表現などを大切に、練習していかねばなりません。そこで多くの先生方からアドバイスを頂くために農場職員室などで発表練習をし、アドバイスを頂きました。また、同じく北信越大会に出場する富士見高校に行き、練習をしました。富士見高校はプロジェクト発表で昨年、全国大会で最優秀賞を受賞し、過去にも意見発表などで北信越、全国大会に出場して活躍しており、発表中の表現の仕



方などアドバイスをさせて頂きました。実際に教わりながら練習してみると、それまでの発表と様子が大きく変わり、より良いものになりました。多くの方から教わったことを思い出しながら、友達や先生の前で発表し練習を繰り返しました。本番では発表順番が最後で、他県の生徒の発表がとも良く聞こえ、動揺してしまいました。練習の成果を発揮して発表をしました。結果発表で最優秀賞を受賞し、いよいよ全国大会だと意欲が湧きました。

これまでの意見発表を振り返ってみると、今まで支えてくれた先生方や友達のおかげで全国大会に出場でき、全国優秀賞も受賞出来たと思います。とても感謝しています。特に校内予選から全国大会まで、理想の発表ができず悩んだ日々も毎日練習に付き合ってくれた寺澤先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。貴重な体験ができ、一生の思い出になると思います。

食肉惣菜創作発表会

ミートデリカコンテスト全国大会に参加して

アグリサービスク三年 久保敦美 香

私は、食肉惣菜創作発表会ミートデリカコンテストに参加してきました。この大会は、国産食肉(牛肉、豚肉、鶏肉)を使用した惣菜のメニューを開発し、国産食肉の利用技術の向上・普及を図る為にあります。私は「味噌にんにくソースのポークソテー」を作っ

て県大会に出場しました。材料が少なく、簡単に調理ができる事が評価され、優秀賞をいただき、県代表として全国大会に出場しました。全国大会へ向けてもう一度レシビを考え直し、制限時間以内に作品を完成できるように練習しました。その時、調理実習で先生に教えてもらった事を意識しながら本番に向けてしっかりと準備ができたと思います。

他の選手の作品は、地元の特産品を使った料理が多く、初めて食べた味もあり、とても面白かったです。賞には入賞できませんでしたが、大勢の方に「おいしい。」と言ってもらえたり、飯田には、おいしい食肉が沢山あるので、このような大会を通じてもっと広められたらいいなと思いました。

は、様々な世代の男女が出場し、緊張しましたが、近くで先生が応援してくれたので楽しく調理ができました。



出場した3年 久保敷美香さん

今村眞直氏より 町村誌五十冊寄贈

今村眞直氏(旧二十一回)より地元町村誌計五十冊と収納する木製本棚、さらに校歌の作詞者である日夏耿之介氏の写真を学校に寄贈していただきました。特に町村誌は地域の文化や歴史を知る資料として一級品です。下久堅村誌、竜丘村誌、山本村誌等々高価で、今では入手の困難な本がたくさんあります。授業での活用、さらには

今後予定される本校の記念誌作成の際には絶好の参考資料となると思います。今村氏の母校に寄せる温かな気持ちに心より感謝申し上げます。



平成24年度 決算書

- 1 歳入総額 2,722,815円
- 2 歳出総額 1,474,051円
- 3 差引残額 1,248,764円

平成25年 5月18日 提案承認
平成25年 5月18日 提 承

1 歳入の部 (単位: 円)

科 目	予 算 額			収入済額	比較増減	備 考
	当初予算額	流 用	計			
入 会 金	1,264,000	0	1,264,000	1,264,000	0	8000×158名
雑 収	445	0	445	260	-185	利息、CD売上げ
繰 越 金	1,150,555	0	1,150,555	1,150,555	0	
終 身 会 費	314,000	0	314,000	308,000	-6,000	2000×154名
そ の 他	0	0	0	0	0	寄付等
合 計	2,729,000	0	2,729,000	2,722,815	-6,185	

2 歳出の部 (単位: 円)

科 目	予 算 額			支出済額	予算残額	備 考
	当初予算額	流 用	計			
1 事務費	465,000	0	465,000	145,024	319,976	
1) 旅 費	135,000	0	135,000	3,400	131,600	支会総会等の旅費
2) 事 務 費	60,000	0	60,000	0	60,000	手数料・プリンター・インク他
3) 通 信 費	20,000	0	20,000	5,230	14,770	郵送料・電話代
4) 消 耗 品 費	70,000	0	70,000	1,194	68,806	印刷用紙他
5) 負 担 金	30,000	0	30,000	0	30,000	地区同窓会負担金
6) 正副会長交際費	150,000	0	150,000	135,200	14,800	各種会議参加費等
2 会議費	260,000	0	260,000	180,901	79,099	
1) 役 員 会 費	30,000	0	30,000	9,450	20,550	監査会等
2) 代 議 員 会 費	170,000	0	170,000	119,923	50,077	代議員会
3) 幹 事 会 費	60,000	0	60,000	51,528	8,472	校内幹事会会議費
3 事業費	1,450,000	0	1,450,000	974,023	475,977	
1) 稲 穂 会 費	120,000	0	120,000	119,334	666	活動費・総会費
2) 事 業 推 進 費	370,000	0	370,000	170,219	199,781	支会総会の参加
3) 稲 丘 時 報 発 行 費	250,000	0	250,000	241,500	8,500	稲丘時報発行費
4) 同 窓 会 林 管 理 費	10,000	0	10,000	0	10,000	同窓会林間伐等管理
5) 新 正 会 員 歓 迎 費	150,000	0	150,000	150,000	0	校歌等CD購入用積立て
6) 稲 丘 会 事 業 寄 付 金	200,000	0	200,000	200,000	0	(財)稲丘会
7) 親 善 大 会 費	100,000	0	100,000	92,970	7,030	親善ゴルフ
8) 研 究 費	250,000	0	250,000	0	250,000	母校の将来を考える会
4 雑支出	226,000	0	226,000	74,103	151,897	
1) 慶 弔 費	120,000	0	120,000	32,103	87,897	祝儀・香典・弔電
2) 転 退 職 員 記 念 品 費	60,000	0	60,000	42,000	18,000	餞別
3) 雑 費	46,000	0	46,000	0	46,000	
5 予備費	328,000	0	328,000	100,000	228,000	
1) 予 備 費	328,000	0	328,000	100,000	228,000	農ク全国大会協賛金
合 計	2,729,000	0	2,729,000	1,474,051	1,254,949	

平成二十四年度 会員の異動

同窓会員(名)
二十五年三月卒業により正会員になった人 一五五
二十五年四月入学により準会員になった人 一五七

正会員数 一七、九三四
旧制 二、四八九
高校 一五、四四四
内 男子 一〇、六二〇
女子 四、八二四
(二十四年度六十八)
(二十四年度八十七)

会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

井口喜代男 (旧二十回) 本島 繁 (旧二十六回) 本島 重二 (十回) 山本
篠田 正二 (旧十八回) 小平 育人 (旧二十六回) 高森町
牧野 幸好 (三回) 吉川 弘 (十回) 上郷
松村 好和 (二回) 東京東山和市 今村 勝光 (旧二十六回) 川手 源逸 (九回) 下久堅
萩原 和夫 (旧二十五回) 石原 孝夫 (二十一回) 下原 彩子 (十二回) 伊賀良
関島 徳雄 (旧十四回) 湯澤 良雄 (二十六回) 喬木村 売木村 時又 森本 幸夫 (九回) 森本 幸夫 (九回) 伊賀良

編集後記

本年度も無事「第七十八号稲丘時報」を発行することができました。多くの皆様のご協力を頂きました。改めて感謝とお礼を申し上げます。

本号は校内の生徒の活躍について主に編集いたしました。会員の皆様に母校の近況が伝われば幸いです。本来ならば昨年十二月頃までに発行できればと思いましたが、二月初旬になってしまいました。申し訳なく思っています。是非ご覧いただき、ご意見をお寄せいただければ幸いです。(稲丘時報係)